

1 学校教育目標

○よく考える子 ○心豊かな子 ○たくましい子

2 めざす学校像、児童・生徒像、教師像

○学校像	<ul style="list-style-type: none"> ○皆の人権が守られ、生き生きと生活できる安全・安心な学校 ○確かな学力と豊かな心、健やかな体を本気で育てる学校 ○保護者・地域と連携を深め、信頼される学校
○児童・生徒像	<ul style="list-style-type: none"> ○自ら考え、自ら学び、チャレンジする子 ○あいさつをきちんとし、誰に対してもやさしく思いやりのある子 ○すすんで体を動かし、心身ともに健康でたくましい子
○教師像	<ul style="list-style-type: none"> ○子どもの人権を守り、共に汗を流し、喜びや悲しみを分かち合う教師 ○日々の授業の充実を目指してチャレンジする教師 ○危機管理(最悪を考え、慎重に、素早く、誠実に、組織的に)を意識し、情報共有・共通実践していく教師集団

3 学校の現状及び前年度の成果と課題

〈 現 状 〉

○児童数324名、学級数11(第5学年が単級)。児童は明るく素直で、学習態度、生活態度ともおおむね落ち着いている。4年度は、児童の学校生活の様子を久しぶりに公開できた。授業を直接見ていただくことで、保護者・地域の学校教育への理解・協力、そして学校評価等を通じた参画を一步前進させることができたと思う。児童の安全とあいさつの励行に向けて、学校・家庭・地域の三者で協力している。自分からすすんであいさつできる児童、立ち止まって会釈できる児童、会釈のみの児童など、児童によってあいさつの様子はそれぞれであるが、あいさつ運動の取組などもあり、児童はあいさつやその大切さを皆意識し、身に付けている。

○本校初任または6年未満の教員が17人中7人である。目指す児童の姿を共有し、指導力の向上や授業の充実(改善)に向けて自己研鑽はもちろん、学年等の教員間でも授業研究を推進している。

○コミュニティースクール通算11年目となる。

〈 前年度の成果と課題 〉

○一人一人の児童がタブレット端末を用いて学習することが日常の当たり前になっている。教員は授業改善に努め、児童や保護者からも良好な評価を得た。より効果的・効率的に活用できるよう、児童に情報活用能力を身に付けさせることができるよう、5年度も目的や場面を考えながら、実践していく。

○低中高、専科の4グループで教員の授業研究をすすめることができた。5年度はグループ内の教員全員で互いの授業を見られるよう研究日を設定していく。

○あいさつの取組については児童の発想や工夫を生かし、児童主体の活動を継続して行うことができた。また、当番活動は3年生以上の児童が分担して取り組む機会を設けられた。5年度も学年当番の取組と合わせて、児童の柔軟な発想を生かしていけるよう推進していく。

○学校・家庭の連携・協力により、改善、解消することのできた課題は多くあった。逆に連絡・連携が十分でなく、課題を見逃してしまうこともあった。平時から教員と保護者の連携・連絡をより密に行っていくことで、児童の学校生活の安定と成長を図っていく。

4 重点的な取組事項						
	内 容	実施期間（年度） R:令和				
		R3	R4	R5	R6	R7
1	学力向上アクションプラン	○	○	○	○	○
2	体力向上	○	○	○	○	○
3	心の醸成（規範意識・自己肯定感の向上・いじめ暴力暴言の根絶）	○	○	○	○	○
4	保護者・地域との連携・協力による教育活動の充実	○	○	○	○	○

5 令和5年度の重点目標

重点的な取組事項－1		学力向上アクションプラン							
A 今年度の成果目標		達成基準 (目標通過率)		実施結果 (通過率結果)		コメント・課題		達成度 ◎○△●	
年度中の調査目標値通過率を 国語・算数とも学校全体85%以上		○5年度4月区調査 通過率85%以上 ○2月到達度確認調査 通過率80%以上		○5年度4月区調査 89% (国)・83% (算) ○2月到達度確認調査 79.0% (国) 79.9% (算)		2月調査では、1年と5年が低い結果であった。2年が70.3(国)、68.8(算)、5年が72.2(国)、66.7(算)。 1年については問題形式や分量の面で経験がなかったことが大きく影響したと考える。5年については本校唯一の単級学年で40人近い児童が一斉に学習しているために、次年度以降も個別指導や、補充的な学習保障が課題である。		△	
B 目標実現に向けた取組み									
新・継	アクションプラン	対象学年 実施教科	頻度・ 実施時期	具体的な取り組み内容 (誰が、何を、どのように)	達成確認 方法	達成目標 (=数値) (いつ・何を・どの程度)	実施結果	コメント・課題	達成度 ◎○△●
1 継続	授業改善	都歴5年 未満及び 入区1年 目の教員	通年	授業スタンダードの定着 (めあて、振り返り、板書) 指導と評価の一体化を実 践	・週案 ・管理職等による授業観察 ・学校評価	・対象教員の 100%が理解し 実践 ・「よい」85%	・教員100%が理解。 73.3%が実践でき ていると回答 ・保護者：86.2%が 「よい」と回答	・授業改善に日々努 めている。できてい るかどうか自信がな いと回答する教員も いる。課題は当然あ るが、実践は皆でき ている。	○

2 継続	校内研究	全教員	通年 月1回	目指す児童像に迫るための授業研究を全教員で行う。低・中・高・専科に分かれた分科会を設定する。	授業観察 (年3回)	具体的な成果と課題の分析	<ul style="list-style-type: none"> ・授業観察は1月時点で5回 ・分科会毎に児童に身に付けさせたい具体的な力を共有し授業研究を進めた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・分科会毎に教科や主題を決め、分科会毎に複数回の研究授業を行った。予想以上に充実できた。 ・校内で主題を共通にして研究を進めたいという声も上がってきている。 	○
3 継続	ICT活用	全学年 全教科	通年	<ul style="list-style-type: none"> 端末活用①（検索・資料作成・AIドリル等） 端末活用②（協働学習等） 	週案 授業観察 (年3回)	全教員が①②の活用場面を授業で実施	<ul style="list-style-type: none"> ・①については全教員が実施。 ・②については40%ができていると回答。 	<ul style="list-style-type: none"> ・全教員が端末を効率的効果的に利活用している。②については今後、効果的である実践事例を校内で共有していく。 	△
4 新規	少人数指導	1, 2年 算数	通年	・都の時間講師を活用し、低学年の算数においても担任+1のグループ編成をして指導する。	<ul style="list-style-type: none"> ・週案 ・授業観察 	・実施率 80%	<ul style="list-style-type: none"> ・4月10日以降、学校行事等で変更のない時間はすべて少人数指導を実施できた。 1年88% 2年91% 	<ul style="list-style-type: none"> ・会議室をなくして低学年用教室を増設し実施。算数的活動や一人一人の発言機会、個別指導等を充実させることができた。 	○

5 継続	読書活動	全学年	通年	<ul style="list-style-type: none"> ・学級文庫の設置 ・手元に本のある教室 ・記録用個別カード ・3年以上の調べる学習（図書館支援員の活用） ・読み語り（図書ボランティアの協力） 	<ul style="list-style-type: none"> ・記録用個別カード ・週案（調べる学習） 	<ul style="list-style-type: none"> ・読書達成率 60% 1年 100冊 2年 150冊 3年 2000ページ 4年以上 3000ページ ・調べる学習 3年以上 100% 	<ul style="list-style-type: none"> ・1月末時点での達成児童数は86名。 ・毎月、読書表彰朝会を実施。目標達成証を渡し賞賛した。残り2か月継続し達成率60%を目指す。 	<ul style="list-style-type: none"> ・計画していた取組はすべて実施できた。支援員活用として各学年の教科学習内容と関連する書籍を教室前に設置した。多くの児童が手に取り、関心をもてた。 ・休み時間は外遊びを推奨している。また、授業等の隙間時間には読書よりもタブレット操作を楽しむ子が多く、学校生活での読書時間が減っている。 	△
6 継続	夏休み 補充教室	各学年 若干名 国算	夏休み 10日間	<ul style="list-style-type: none"> ・水泳指導と重ならない時間に設定。理解不十分な単元の補充 ・AIドリル学習 	実施前後で指標となるテスト実施。	<ul style="list-style-type: none"> ・正答率向上 	AIドリル20問 事前事後で正答率が向上した児童は、 5年の14人中11人 6年7人全員	6年については正答率が15P以上あがった。効果検証は児童にも教員にも達成感を生む。	○
7 継続	家庭学習 の定着	全学年	通年	<ul style="list-style-type: none"> ・目安の周知：15分×学年 ・家庭学習カード ・自主学習ノートの指導 ・AIドリル学習 	<ul style="list-style-type: none"> ・左記カード ・学校評価 	<ul style="list-style-type: none"> ・宿題定着率 90% ・自主学習 下学年 60% 上学年 80% 	<ul style="list-style-type: none"> ・1,2,3,4,6年担任は定着していると回答 ・児童回答 1年(71)、2年(76)、3年(80)、4年(76)、5年(55)、6年(81) ・保護者回答 1年(82)、2年(74)、3年(68)、4年(75)、5年(33)、6年(69) 	5年については、教員、児童本人、保護者の3者とも定着が十分でないと回答した割合が高い。	△

重点的な取組事項－2		体力向上			
A 今年度の成果目標		達成基準	実施結果	コメント・課題	達成度
全国体力調査8種目の結果について都平均を超える		都平均を超える種目を4年度結果よりも増やす(重点種目:投力)	都平均を超えた種目数 R4 R5 2年男:6 ⇒3種目 2年女:6 ⇒3種目 3年男:5 ⇒5種目 3年女:3 ⇒4種目 4年男:3 ⇒6種目 4年女:3 ⇒5種目 5年男:4 ⇒3種目 5年女:6 ⇒6種目 6年男:4 ⇒6種目 6年女:5 ⇒7種目	・2年については1年の時は6年生がマンツーマンで補助についてくれていたことが影響していると考えられる。 ・3年以上では5年男子のみが種目数を減らしている。多くの学年で維持、向上できたと考えられる。	○
B 目標実現に向けた取組み					
項目	達成基準	具体的な方策	実施結果	コメント・課題	達成度
基礎体力の向上	全国体力調査8種目の都平均以上の種目を保持増進する。	<ul style="list-style-type: none"> ・体育指導の充実(年間計画に基づく授業実践) ・縄跳びカード、投力強化、持久力強化実践 ・スポーツ指導ボランティア ・休み時間の活用(場の工夫) 	<ul style="list-style-type: none"> ・都平均以上 1年男:7種目 1年女:7種目 2年男:3種目 2年女:3種目 3年男:5種目 3年女:4種目 4年男:6種目 4年女:5種目 5年男:3種目 5年女:6種目 6年男:6種目 6年女:7種目 	<ul style="list-style-type: none"> ・体力向上の取組は年間計画に基づきすべて実施。 ・休み時間は全校で外遊びを励行。運動時間の確保のために全体で意図的に取り組むことは最小限にし自由遊びを重視した。 	○
生活習慣の確立 学校保健行動計画の実施	学校評価「よい」85%以上	<ul style="list-style-type: none"> ・休業日明け「元気カード」 ・保健便りの活用、学級指導 ・健康に関する講演会1回(保護者対象) ・歯の指導(全学年) ・虫歯治癒率の向上(80%) 	<ul style="list-style-type: none"> ・年間計画に基づき、児童への指導はすべて実施。 ・歯科受診率 90.3% ・学校評価「よい」73.7% 	歯科の受診率は眼科や耳鼻科に比べて極端に低い傾向にあるが、養護教諭と担任が個別に家庭へ連絡をしたことで、9割を超える受診率であった。	○
食への自己管理能力の向上	残菜率 1%以内	<ul style="list-style-type: none"> ・給食便り、栄養士からの手紙の活用、学級指導 ・学校園での栽培活動 	<ul style="list-style-type: none"> ・すべて計画どおりに実施。 ・残債率 主食:0.9% 主菜:0.8% 	・校内全体で完食を強いる指導は行っていないが、残債率の低さは驚きの値である。	○

重点的な取組事項－3		心の醸成（規範意識・自己肯定感の向上・いじめ暴力暴言の根絶）			
A 今年度の成果目標		達成基準	実施結果	コメント・課題	達成度
他人を思いやる気持ちや共に助け合っ て生きようとする態度の育成		学校評価「よい」90%	・保護者：89.8% ・教員：93.4%	教員間の連携や共通実践に よる取組が成果に表れたと 考える。	○
B 目標実現に向けた取組み					
項目	達成基準	具体的な方策	実施結果	コメント・課題	達成度
規律の徹底 よい子のきまり 授業規律	学校評価 「よい」85%	・看護日誌、生活指導朝会 ・全教科授業を通して指導 ・教職員による評価	・教職員：93.4%	・多くの教員が授業規律の定 着を評価している。今年度は 特に当初から授業規律の共 通理解や共通実践を全教員 で確認したことで児童の定 着につながったと考える。 ・発達課題からか、教員の指 導がなかなか入らず、分かっ ていながら正しい行動をし ない児童もいる。児童理解と もに個別指導を続ける。	○
いじめの根絶 いじめをしない、許 さない心、傍観者に ならない	・いじめの解消率100% ・学校評価 「よい」90% ・必ず取り組む18項目 の実施	・年3回のアンケート調査 ・迅速な校内委員会による対 応及び継続指導の実施。 ・基本方針の周知（6月まで） ・校長講話（年10回）	・いじめ認知件数 81件 ・発生（認知）から3ヶ月経過し た案件の解消率は91.9% ・重大事案1件（昨年度から） ・保護者評価「よい」：75.4%	・日常的な学校と家庭の連絡 を継続してきたことにより、 情報共有が推進され、いじめ 等は小さな芽のうちに解消。 また今年度新たな重大事案 は発生していない。 ・学校の取組については「分 からない」の回答が17%で あった。さらに家庭への情報 発信、連携連絡を続ける。	△

道徳授業	<ul style="list-style-type: none"> ・指導計画に沿った実施 ・道徳授業の公開 	<ul style="list-style-type: none"> ・道徳授業を通し、児童の道徳的判断力、心情、実践意欲と態度を育成する。指導の重点は、低学年「礼儀」「生命の尊さ」「友情、信頼」、中学年は「友情、信頼」「生命の尊さ」、高学年は「個性の伸長」「相互理解、寛容」「生命の尊さ」 ・すべての教科領域において全体計画に基づき、児童の道徳性を養う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・すべての学年が年間計画に基づき、実施できた。 ・道徳授業地区公開講座（1 月土曜授業）を実施 	<ul style="list-style-type: none"> ・今年度は大谷田小としては初めて法務省人権擁護委員と連携した授業を全学年で実施した。生命尊重や多様性等について道徳の指導重点と関連付けて行った。 	○
縦割り班活動	<ul style="list-style-type: none"> ・年間指導計画の作成及び実施 	<ul style="list-style-type: none"> ・異年齢集団の班で年間を通して遊びで交流する。 ・相手、他者への思いやりのある態度を育てる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・年間計画に基づき実施 	<ul style="list-style-type: none"> ・教員の意図的計画的な取組だけでなく、休み時間に異学年の交流が日常的にできている。特に6年と1年の交流遊び。これこそ、望ましい姿であると考えている。 	○
特別支援教室との連携	<ul style="list-style-type: none"> ・特別支援を要する児童の安定した学校生活 右記の方策実施 100% 	<ul style="list-style-type: none"> ・月1の教育相談校内委員会 ・月1の特別支援校内委員会 ・週1の情報交換 ・特別支援教室参観（年1回） 	<ul style="list-style-type: none"> ・月例、週例の会議、情報交換、共有は行えた。 ・特別支援教室参観について担任はできなかった。その分、利用する児童についての指導内容等の共有を十分に行った（通年）。 	<ul style="list-style-type: none"> ・校内支援委員会が毎月確実に実施でき、検討を行えたことにより、特別支援教室を利用する児童が年度途中でも増えた。24名⇒30名 	◎

重点的な取組事項－４		保護者・地域との連携協力による教育活動の充実			
A 今年度の成果目標	達成基準	実施結果	コメント・課題	達成度	
保護者、地域人材との連携 あいさつの習慣化（CS 重点目標）	・学校評価「よい」85%	・保護者：78.8% ・教員：86.7%	・保護者、地域、教員が連携協力して挨拶の習慣化に向けて取り組んだ。 ・校内では3年以上に当番として月単位で朝の挨拶運動に取り組みました。児童に気づき、自覚を促す機会となった。家庭と学校で評価に若干の差はあるが、継続していく。	○	
B 目標実現に向けた取組み					
項目	達成基準	具体的な方策	実施結果	コメント・課題	達成度
学校運営協議会及び開かれた学校づくり協議会の開催	・年7回 ・年3回	・学校運営協議会による学校経営計画の承認、あいさつ運動、学習支援、学校評価 ・開かれた学校づくり協議会による学校評価	・計画どおりに実施	・協議会委員の方々にも授業や行事を公開できた。	○
保護者との連携	・年間計画により実施 ・月1回程度 ・年2回程度	・学校の公開 ・日常的な担任と保護者の情報共有 ・PTA活動に全教員が参加	・計画どおり実施。 ・環境浄化やスポーツ等のPTA活動に教員が参加できた。	・PTA総会に今年度からは全教員が出席するようになった。また、保護者からの相談等にも担任だけでなく必要に応じて学年主任や管理職も一緒に対応した。信頼関係、協力関係を築くことができて良かった。	◎
あいさつの習慣化（CS 重点目標）	・学校評価「よい」85%	・児童会あいさつ運動の継続 ・情報の発信の強化	・教員主導であったが、児童の挨拶当番は年間通して実施。 ・運営委員によるあいさつ運動を3回実施（入学式、運動発表会、学習発表会）	・児童会のアイデアによるデザインで挨拶運動ののぼり旗を作成していただき、全学年が活用できた。	○

交通安全防災支援 ・交通安全ボランティア ・避難所運営	<ul style="list-style-type: none"> ・毎日の登校の見守り ・交通事故ゼロ ・災害時円滑な避難所運営 	<ul style="list-style-type: none"> ・交通安全に関する安全教育 ・教員とボランティアと保護者の三位一体の見守り（通年） ・地域防災との連携マニュアル 	<ul style="list-style-type: none"> ・教員、保護者、ボランティアが計12箇所での活動。 	<ul style="list-style-type: none"> ・2月8日時点で登校時の事故はゼロ。引き続き、皆で協働していく。 	○
園芸支援 ・なるなる農園ボランティア	<ul style="list-style-type: none"> ・生活科、総合的な学習の時間の中で計画実施 6月：ジャガイモ収穫 	<ul style="list-style-type: none"> ・なるなる農園の維持管理 ・花壇の保全 	<ul style="list-style-type: none"> ・じゃがいも収穫、さつまいもの苗植え、収穫までを実施できた。 	<ul style="list-style-type: none"> 都立公園の工事があったが、3、4年の農体験はすべて実施できた。また、校内で2年児童とボランティアの皆さんとで球根植えを一緒に行った。 	○
図書支援 ・図書ボランティア	<ul style="list-style-type: none"> ・各学年読書目標の達成 ・図書支援員の活用 ・ボランティアとの連携 	<ul style="list-style-type: none"> ・読書カードの継続 ・環境整備（図書室・教室） ・朝の読み聞かせ 	<ul style="list-style-type: none"> ・計画どおり実施。 	<ul style="list-style-type: none"> 今年度も新1年の体験授業の際にボランティアの方による読み語りやパネルシアター上演を行うことができた。 	○
学習支援 ・学習支援ボランティア ・スポーツボランティア	<ul style="list-style-type: none"> ・外部講師の活用 ・ボランティアとの連携 	<ul style="list-style-type: none"> ・学力向上支援、環境整備 ・スポーツボランティア サッカー、ラグビー、ダンス 	<ul style="list-style-type: none"> ・計画どおり実施 	<ul style="list-style-type: none"> ダンスとサッカーを低学年、ラグビーを中学年、野球教室を6年で実施できた。5年だけ運動系の活動ができなかった。（5年は他領域で講師を複数回活用） 	○

6 まとめ

(1) 今年度の成果と次年度に向けた課題及び解決の方向性

- ・ 足立スタンダードの理解は十分である。振り返りまでを確実に行う時間配分や、自力解決場面での個別指導等、授業実践の中で身に付けていく。
- ・ タブレット端末の利活用は、習熟学習や撮影、調べ学習やそのまとめ、発表等で取り組んでいる。教員の自己評価が低い協働学習や個別最適な学びについては授業実践の中で今後も挑戦していく。
- ・ 授業研究については低中高専の4分科会とも授業を公開し、実践研究を進めることができた。毎月1回の授業研究日を今後も継続させていく。
- ・ 区調査で課題となった算数についてはサマースクールの効果検証の他、以下の結果であった。次年度もサマースクールについては効果検証を行い、児童と教員のモチベーションを上げる。
 - 単元別習熟テスト結果：3年(86)、4年(83)、5年(76)、6年(82)
 - 東京ベーシックドリル(A問題5月とC問題12月の比較)：3年(85.3⇒90)、4年(80⇒85.5)、5年(72⇒73)、6年(69⇒73.7)
- ・ 読書についての目標設定がコロナ期間と変わらず適切でなかった。今年度の達成状況を踏まえて、現状に見合った目標を設定する。また、新たに放課後の図書室開放を始めたい。
- ・ 各学年の教科学習内容と関連する書籍を教室前に設置してもらい(図書担当と支援員の連携)、児童がいつでも手にできるようにした。本を使って調べる学習の一助となった。次年度も継続。タブレットではなく、あえて本を用いて調べる学習機会を意図的に計画する。

(2) 保護者や地域へのメッセージ

- ・ 児童の安全安心な校内外の生活について、5年度も、保護者、地域の皆様に多大なご支援とご協力をいただきました(登校時には保護者の方に4箇所、地域ボランティアの方には7箇所の交差点で安全の見守りと挨拶指導)。またPTA役員の皆様の放課後校外パトロールも実施していただきました。おかげ様で児童の登下校時の交通事故ゼロで1年を送ることができました。感謝申し上げます。
- ・ いつでも気になることがあればご連絡ご相談いただきたいとお伝えしてきました。我が子に限らず、子どもたちに関わる情報をたくさんの皆様からいただき共有することができました。おかげさまで学習面、生活面、友人関係等で大きな問題となる前に対応できることが多くありました。今後とも、保護者・地域との連携協力は不可欠です。よろしく願いいたします。
- ・ 図書ボランティアと農園ボランティアの皆様大変お世話になりました。毎週水曜日にボランティアの皆様に読み語りをしていただきました。また、図書や環境の整備を通して児童の読書推進にお力添えをいただきました。農園ボランティアの皆様のおかげで2, 3, 4学年児童が農体験をさせていただきました。貴重な体験でもありましたし、中川公園を教材にして本校の特色として教育に活用していく機会にもなりました。感謝申し上げます。

(3) その他(学校教育活動全般について)

- ・ より良い教育活動を推進していくうえで、教員が元気に力を発揮していくためには信頼関係は欠かせません。教員同士は当然ですが、教員と児童の信頼関係、教員と保護者の信頼関係が良好であることが大切であると思います。そのためにもまず教員は児童理解、よく分かる授業、楽しい授業を追求し児童との関係を構築します。保護者の皆様には教育活動の積極的な公開と情報発信、児童の姿を通して、信頼を得られるよう今後も努めてまいります。